

東京自主勉内サムライブルーチームです。  
以下、簡単ですが課題文について説明させていただきます。

今回提出させていただいた課題文は、先入観のない方に事前に解いていただいた後、修正をかけたものです。

建築を普及させる建物を作るために、標準回答例作りでは施設利用者の属性を以下のように整理しました。

建築に関係の深い私たちのような受験生また技術者全般

建築に興味のある一般市民

建築に興味はないが施設を訪れる一般市民

当初作成した課題文では、言葉は悪いですが、ままと条件をクリアされた上、なかなか減点のしにくい回答を提出されていまいました。建物中央をどんと突き抜けるアトリウムの姿など微塵も感じられないのに失格にできない回答で、課題文としては”6割合格”なものとなってしまいました。

その大きな原因としては、課題文上での難易度設定と解手の心理を上手く理解できなかったことにあると考えています。(受験生なのに・・・)

そこで、アトリウムと諸室の関係、アトリウムと建物全体の関係をどのように表現すべきか、という点的を絞り再度課題文を作成しなおしました。

主に、設計条件ではアトリウムについて”ハード”的なヒントを、所要室では”ソフト(ストーリー)”的なヒントを表現することとし、所要室の特記事項ではアトリウムに関する表現に強弱を付けることで、階振り・ゾーニングのとっかかりとなるよう意図しています。

前半戦模試でもそうでしたが、ヒントとなる言葉の掛け算によってより出題者の意図する施設に近づける課題文をめざしました。

今回は採用を見送っていますが

過去問ででている”3面以上外壁に面してはならない”といった条件をアトリウムに適用しても面白かったなと今頃感じてます。

ブラフには、15人乗りEV、免震層などを採用しました。

一見いつもと違うEVが何かのヒントに見えますが、特に計画には大きく影響せずシャフト寸法もいつもと変わりません。

課題そのものを上手に作れるようになるには、まだまだ練習が必要ですが課題を解く姿勢はこのコンペで大きく変わりました。この場を借りて課題文作成に協力していただいたたっちゃんさん、にいさん、東京自主勉のみなさんにお礼申し上げます。

受験生のみなさん、後半戦もイッチョやったりましょ。願います。